

講演

演題：「もしもの防災 役立つあれこれ」 ～災害から自分と家族を守るコツ！～

講師：NPO法人わんだふる 代表理事 赤羽潤子氏

〔概要〕

□ 地域の防災と福祉を一体に考えた”まちづくり”を進め13年目になる。

本日は、役立つ防災を、実践を交えて行う。

◎NPO法人わんだふる 設立は平成18年9月1日で防災の日。その時に、半径200mがわんだふるの活動エリアと定める。

↓

※意味：半径200mが、高齢者がシルバーカーを押して歩いて行ける距離。

普通は300mと言われているが、災害時、実際に歩けるのは200m。

高齢者は一気に200mでさえ歩けない。一休み等を間に入れるのが現状のため。

高齢者だけでなく、子どもを抱えた母親・障がい者も同様。また、ボランティアをする人が車を仕様せず、すぐ対応出来る距離であるため200mとする。

◎NPO法人わんだふる→地域包括ケアシステム。居場所・配食サービス・移動販売を行っている。”地域の中で最後まで生き抜こう”がテーマで実践。

※現在の国の政策→高齢者施設で最後を迎えるのではなく、住み慣れた地元で、最後を迎えるよう進めている。

◎自分達の地域は自分達で守る。

◎本年度も既に、豪雨多発 線状降水帯→積乱雲が幾重にも重なった状態の大雨
原因は、台風、地震(本年発生)

〔川の決壊、土砂災害〕

↓

温暖化が原因→今後も続く

◎群馬は安全神話の強い県→東日本災害→意識が変わってきた。

※地層が熊本と群馬が似ている。火山の噴火の上に出て開けた地域。内陸の直下型地震は一週間ほど注意が必要。こうした知識が身を守る。

□ 2月13日～14日の大雪の例→行政の人間も被災者の為、直ぐには動けない。

↓

※72時間(三日間) 発災から初動体制は、各自・家庭・地域で行う。
(地域の間が地域を助ける。)

↓

行政支援開始

(対応策を考え、次に備える。)

- 火山災害→温泉が多い 渋川(群馬要注意)
 - | 群馬には観測所が三カ所ある。→草津白根
 - ↳※榛名・赤城は要注意 →浅間
 - 日光白根
 - ※県内に三カ所は多い

- 普段から散歩等で安全確認が必須
 - ↳※指定避難所までの避難経路確認。(家族・地域で行う。)
 - ※いざという時、子どもは通学路を選ぶ。→水害時・地震時等は別の道があるという事を家族会議で決めておき、子どもと一緒に安全体験チェックをしておく。

- 資料の2ページ、渋川市の災害情報取得一覧表を参考に、情報収集を行う。
 - 避難勧告情報・避難所開設情報収集(渋川ホットマップメール)。
 - 正しい情報をいち早くキャッチが必須。

 - テレビのリモコンの(d) ボタンを活用。(高齢者には、メール等は難しい。)
 - ↓ ラジオ・テレビは活用しやすい。
 - 初動体制に活用。(地域で)

- ハザードマップの活用(家族会議で確認しておく。)

- 資料1『避難情報の確認』
 - | 二つの意味→①直ぐに逃げられるように準備しておく。↳知らない人
 - ↓ →②一人で逃げられない人は避難開始。↳ 多数
 - ※平成28年12月26日に国が変更
 - 『避難準備・高齢者等避難開始』→群馬県は、平成29年1月、防災委員会で
 - ↑ 国に準じる決定。
 - 〔一人で逃げられない人〕←資料3ページ下段

- ◎防災マップ……渋川市全体のもの。
- ◎地域マップ……近隣地域で作成する。(問題点が見えてくる。)
- ↓
- ◇自宅の間取り(安全な所・危険な所を記載)気が付いたら対策する。
 - タンスの固定等。

◇向こう三軒両隣

◇班の地図

※声掛けは地域の人。(知らない人間が声掛けしてもダメ。)

初動体制は、顔の見える地域の人間が行う。

※避難所の開設→元気な人、近所の人から先に場所取りをする。

↓ 現状を踏まえ、町内毎に上手に配置。

訓練「地域の

↳後から来る、高齢者や小さい子どもを連れ

運営「人間学ぶ

た家族の場所も確保する事が重要。

- 持ち出し袋(資料4ページ参照) ※100円ショップやホームセンターを活用
 - ①+ドライバー(缶穴開け用) ○避難所に一番必要……トイレ
 - ②油漬け魚缶(食料・ランプ)) 災害関連死の予防のために確保
 - ③保温シート リハビリパンツや携帯トイレ(100円ショップ)
 - ④ズボンのリュック ○男女参画 (例)リーダー……男
 - ⑤新聞紙(保温等使用) 副リーダー……女
 - ⑥黒色ゴミ袋 ※女が入らないと上手な運営が出来ない。
 - ⑦下着(特に女性) 一組は用意 ※登山・キャンプ用品を参考に。

- サバメシ(資料5～6ページ参照)
 - 体験し、自分に合った水加減を体験確認しておく。

- ペール缶(ペンキ・ワックス缶)……簡易トイレとして仕様
 - ↳これに、水道管保温カバー・猫砂・ビニール袋をセット。
 - ↳シャワーカーテン・タープで目隠し。

- ダンボールベット
 - 薬局等で、紙おむつ・リハビリパンツが入っていたダンボール2個を使用。
 - ダンボール2個の内1個は、強化のため仕切りとして使用する。
 - 布製ガムテープで必要に応じ止める。
 - 3～4個で、大人一人分のベットになる。

- 担 架
 - ハンモック型が使用しやすい。……会場で体験。(自治会や班で検討)
 - 身近な品で工夫。

- 食 品

- おかげ→高齢者┐
→乳幼児└等対応
→体調不良者└

□ 水 害(冠水)

- プロジェクター画像により説明あり。
- 早めの避難(対応)→自宅では、2階に上がるとか、色々な方法を考えることが大切。
- マンホールは避ける。

□ 昔の災害の伝承

- 昔の災害を、家族や近所で、話し等で伝承する。それが、皆さんにとっての安全安心なまちづくりにも繋がる。

□ 新聞紙スリッパ

- 会場で作成……大人用(新聞紙見開き2枚で片方分)

5 質疑応答

[質問者：3名]

[Q]各地区に防災組織があるが機能していない。訓練が大事。内容が分かっていないので出来ないのではないかと思うが。

[A]まず基礎講座を受けて欲しい。地区の役員は知っていても、末端の人まで分かっていない。普段からの伝達訓練が大切。福祉と防災は一体。

[Q]個人情報保護法が障害になっていて、地域の情報が伝わらない。

[A]その町内(地区)によって違っていると思う。地区から個人情報は教えて貰えないので、活動する仲間同士で取り合っている。

[Q]今の話だが、個人情報もあるが、地域にどうやって情報を伝えるかだと思う。また、どんな情報を流しても、見ていない人が多い。避難所も何処か分からない。その意識が無い。本日のように、色々なグッズを見てもらうことが良いと思う。

[A]その町内に合ったやり方で、皆さんで工夫して欲しいと思っている。